

よりよい自己表現の仕方を考えよう 「こんなとき、どう言う？」

小学校第5学年 学級活動

1 題材設定の理由

- (1) 活動内容・項目
 - (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
イ よりよい人間関係の形成
- (2) 題材設定の背景及び児童の一般的な実態と現状

小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別活動編

＜第2章第2節 特別活動の基本的な性格と教育活動全体における意義＞より引用

第5学年になると、中学年までの経験を生かして、自分たちで決めた集団の活動目標をできるだけ大切に、常に実践活動を振り返り、改善しながらこれを達成しようとする感情や意識が強くなる。学級全体としてまとまった活動ができるようになり、他者の長所や短所なども相対的に捉えられるようになるとともに、目標を実現するために、互いに信頼し支え合って活動することを強く求めるようになる。また、集団としての実践や自分の言動について振り返り、改善するなどしてよりよい生活を築こうとする意欲が高まってくる。さらには、児童会活動やクラブ活動の運営に参加するなど、学校生活の改善や向上にも目を向け、学校全体の集団をまとめようとする意識や活動も見られ、自分の役割や責任などについての自覚が深まってくる。

その一方で、思春期にさしかかるこの時期の児童は、ときに、理想主義的であり、一面的で独断的な傾向になりやすく、相手に批判的になったり自分の価値判断に固執しがちになったりする。また、他者と自分を比較して自分に自信がもてなくなったり、些細なことで他者との関係が壊れたり、他者への不信感をもったり、傷付いたりして、悩みや不安を感じるようになる。また、この時期の学級は、心身の成長の差がより大きくなる中で、共に生活していることも特徴の一つである。

2 指導目標

授業と「友達と関わる学習」を通して、自分も相手も大切にしたい自己表現のよさについて気付かせ、今後もよりよい自己表現を行う意欲を高める。

3 指導法・指導上の留意点

本時では、事前アンケートの結果から自分の思いや考えを素直に表現することの難しさに気付かせ、よりよい自己表現の仕方について考えさせていきたい。そこで、アサーショントレーニングを取り入れ、自己表現には3つのタイプがあることを理解させる。その中で、自分も相手も大切にしたいアサーティブな自己表現の仕方のよさに気付かせ、場面に応じたよりよい表現の仕方を考えさせる。そして、事後指導の「友達と関わる学習」に取り組みさせることで、様々な場面に応じたよりよい表現の仕方をさらに考えさせ、今後の生活に生かせるようにしていく。

4 指導計画

(1) 事前・事後指導

＜事前指導＞ 事前アンケートを実施する（実態調査）。

＜本時＞ 学級活動「こんなとき、どう言う？」の授業を実施する。

＜事後指導＞ 「友達と関わる学習」を実施する。

(2) 教科指導等との関連

道徳：内容項目－10 友情・信頼

友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。

5 本時の指導
(1) 指導過程

本時のねらい		3つの自己表現の仕方について知り、自分も相手も大切にしたりよりよい自己表現の仕方を知ることができる。		
段階	活動	活動の内容	指導上の留意点	【評価】・ ◇資料
導 入	アイスブレイク 【5】	(1)「四つの窓」をする。	○教室の4色を掲示し、好きな色の所へ移動させる。同じ色に集まった友達に、好きな理由を発表させる。抽出児に好きな理由を発表させ、人によっていろいろな好みがあり、互いに認め合う必要性があることを伝える。	◇掲示物(四つの窓 あか・あお・きいろ・みどり)
	課題把握 【5】	(2) 事前アンケートの結果をもとに話し合う。 (3) 本時のめあてを設定する。 自分の考えや思いを伝えるには、どう言えばよいのだろうか？	○事前アンケートの結果を提示し、結果から気付いたことや考えたことを話し合わせる。 ○自分の考えや思いを素直に表現できない友達がいる事実を共有させ、本時のめあてを設定する。	◇アンケート結果
展 開	アサーショントレーニング 【25】	(4) 3つの自己表現について知り、よりよい表現の仕方を知る。 ① 3つの自己表現の仕方を知る。 ・自分は「いばりやタイプで友達に話してしまうな」 ② <練習1> 「友達が勝手に自分の消しゴムを使っていたとき」の注意の仕方を知る。 ・ぼくの消しゴムだよ。返して。 ③ <練習2> 「友達が仲間はずれをしようと言ってきたとき」の断り方を知る。 ・そんなことできないよ。	○教師によるモデリングを行い、「いばりやタイプ」「おどおどタイプ」「さわやかタイプ」の3つの自己表現の仕方があることを伝える。 ○三つの言い方で言われた人の気持ちを考え、「さわやかタイプ」の表現の仕方のよさに気付かせる。 ○自分も相手も大切にしたり「さわやかタイプ」の自己表現の仕方を考えさせ、ワークシートに記入させる。その後、ペアになって互いに表現させる。 ○抽出したペアに発表させ、場面に応じた自己表現のよさを共有する。 ○<練習1>同様、ワークシートへの記入後、ペアで練習させ、抽出児発表後に場面に応じた自己表現のよさを共有する。	◇掲示物(3つの自己表現) ◇<練習1>の掲示物 ◇ワークシート ◇<練習2>の掲示物 【評価2】
	終 末	振り返り 【10】	(5) 本時の活動を振り返る。	○児童一人一人に本時の学習活動を振り返らせるため、振り返りカードへの記入の時間を十分にとった後で、全体での振り返りを行う。

(2) 評価計画

【評価1】	【評価2】	【評価3】
知識・技能 ＜本時＞	思考力・判断力・表現力等 ＜本時＞	学びに向かう力・人間性等 ＜友達と関わる学習＞
自己表現には3つのタイプがあり、自分も相手も大切にしたい自己表現のよさを理解することができる。	場面に応じた自分も相手も大切にしたいよりよい自己表現の仕方を考えることができる。	自分も相手も大切にしたい自己表現の仕方を、今後の生活に生かそうとしている。

(3) 準備物

- ・ 掲示物（四つの窓）
- ・ 掲示物（3つの自己表現）
- ・ 振り返りカード
- ・ アンケート結果
- ・ ワークシート（どう言えばいいのだろうか?）

(4) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 自分の考えや思いを伝えるには、どう言えばよいのだろうか？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> （事前アンケートの結果） </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> （掲示物） <ul style="list-style-type: none"> ○いばりやタイプ ○おどおどタイプ ○さわやかタイプ </div>
---	---

6 事後指導（友達と関わる学習）

- (1) ねらい
アサーショントレーニングを通して、よりよい自己表現の仕方を身に付ける。
- (2) 場所
教室
- (3) 時間
毎回5分程度
- (4) 学習計画

回数	活動の内容	○指導上の留意点
1	◇「放課後になっても消しゴムを返してくれない友達がいるとき、消しゴムの返却をお願いする場面」をロールプレイで行う。	○ロールプレイの場면을事前に掲示し、児童一人一人がどのように返却をお願いすればよいかを考えられるようにする。 ○ペアでロールプレイを行わせ、よりよいお願いの仕方を考えて表現させる。 ○振り返りカードに自己評価させる。
2	◇「自分がとっても大事にしている定規を友達に貸してくれるよう頼まれたとき、それを断る場面」をロールプレイで行う。	○ロールプレイの場면을事前に掲示しておき、児童一人一人がどのように断ればよいかを考えられるようにする。 ○ペアでロールプレイを行わせ、よりよい断り方を考えて表現させる。 ○振り返りカードに自己評価させる。
3	◇「親友が万引きをしようとしているのを見たとき、それを止める場面」をロールプレイで行う。	○ロールプレイの場면을事前に掲示し、児童一人一人がどのように止めさせればよいかを考えられるようにする。 ○ペアでロールプレイを行わせ、万引きを止めさせる言い方を考えて表現させる。 ○振り返りカードに自己評価させる。
4	◇「チーズバーガーを注文したのに、普通のハンバーガーが出されたとき、店員に何と声をかけるか」を考えさせる。	○これまでの学習の発展的な学習として、日常生活の中でどのように適切な自己表現をすればよいかを考えさせる。 ○振り返りカードに自己評価させる。
5	◇これまでの活動を振り返る。	○振り返りカードを見ながら、気付いたことや考えたことを記入させる。 【評価3】

- (5) 準備物
- 掲示資料（ロールプレイ用）
 - 振り返りカード